

令和6年1月14日  
独立行政法人日本学術振興会  
科学研究費委員会

## 令和6(2024)年度科研費の審査に係る総括

### 1. 審査全体の総括

科研費事業は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」であり、ピアレビュー（研究者コミュニティから選ばれる研究者による審査）により、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものである。

令和6(2024)年度の日本学術振興会（以下「振興会」という。）審査担当分の各種目に係る公募については、「電子申請システム」を活用し応募書類の受付を行い、審査については、科学研究費委員会（別紙1－1）に置かれる各部会等において、「科学研究費事業における審査及び評価に関する規程」（独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会決定）に基づき、7,858名の審査委員によるピアレビューを実施した。審査は、研究種目の目的や趣旨に即した審査プロセスや方法を構築し、多様な応募研究計画に対応できる審査体制を整備して適切に行われた。加えて、年度当初から研究活動が円滑に進められるよう、令和6(2024)年1月上旬～3月下旬に研究代表者等に対して審査結果を通知した。

### 2. 主な研究種目の審査状況

令和6年度の審査結果は、新規応募総数は92,136件に対して新規採択件数25,470件となった。各研究種目の審査結果（詳細は別紙3を参照）、主な種目の審査状況及び審査委員から寄せられた意見は以下のとおりである。

#### 【審査結果】

研究種目	応募件数	採択件数	審査方式
特別推進研究	72	10	総合審査 (書面審査+合議審査)
基盤研究（S）※	547	65	
基盤研究（A）※	2,320	632	
挑戦的研究（開拓）※	1,564	170	
挑戦的研究（萌芽）※	9,083	1,073	
基盤研究（B）※	11,875	3,327	2段階書面審査 (ただし研究活動スタート支援は 一度の書面審査で採否を決定)
基盤研究（C）※	45,713	12,551	
若手研究※	13,207	5,290	
奨励研究※	2,638	407	
研究活動スタート支援※	4,179	1,521	
研究成果公開促進費	938	424	—
合 計	92,136	25,470	—

※応募件数が多数となったため、審査区分を分割して複数の小委員会を設けて審査を行った。

## 【主な種目の審査状況及び審査委員から寄せられた意見】

### ○特別推進研究

新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される研究計画を支援する特別推進研究については、研究の独創性及び研究の意義、研究分野の現状と動向及びその中の当該研究の位置づけ、研究遂行能力の適切性等の観点から審査を行い、応募額を最大限尊重した配分を行った。今回の審査から、冊子体の送付を取りやめ、電子審査システムを通じて電子媒体の研究計画調書（色を付した図や文字を使用）及び審査意見書等を提供した。審査委員からは、審査を円滑に行うためマーカー機能や検索機能を附加して欲しいという意見や、電子審査システム上で複数の研究計画調書・審査意見書を同時に閲覧できれば更に良いという意見があった。

### ○基盤研究

独創的、先駆的な研究を格段に発展させる研究計画を支援する基盤研究については、研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点を中心に審査を行った。各種目の審査委員からは、以下の意見があった。

- ・総合審査（ヒアリング含む）を実施した基盤研究（S）の審査委員からは、応募件数の多い区分について、第1回目合議は分割で行い、第2回目合議を合同で行っている運営方法について、特に3分割となっている区分では、審査委員が18名となるため困難さを感じる、第1回目合議の内容を第2回目合議に反映しにくいといった意見もあった。
- ・総合審査を実施した基盤研究（A）では、昨年度の審査委員からの意見をふまえ、審査にあたっての留意点やポイントについての説明会を実施した。録画やFAQの配信も行い、審査開始前に理解を深めることができた、という意見があった。また審査委員からは、中区分での審査のため専門から離れている分野の研究計画調書の審査が難しいという意見が一定数あり、関連して、専門用語の補足説明資料の添付を要望する意見もあった。
- ・2段階書面審査を実施した基盤研究（B、C）の審査委員からは、審査の時期が早まったことから審査期間が大学や学会の繁忙期と重なり、審査する量も多いため負担になっているという意見があった。また、応募者への書面審査コメントのフィードバックを求める意見があった一方、審査の改善に向けて、結果や採否、審査内容の適否についての審査委員自身へのフィードバックが欲しいという意見もあった。

### ○挑戦的研究（開拓・萌芽）

斬新な発想に基づき、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究計画を支援する挑戦的研究については、アイデアの斬新性など挑戦的研究としての意義を重視した審査を行い、応募額を最大限尊重した配分を行った。審査委員からは、規模や実現性の観点から基盤研究に寄った挑戦性に乏しい課題も見受けられることから、審査プロセスなど、（開拓）（萌芽）の一体的な見直しを求める意見があった。

## ○若手研究

博士の学位を取得後8年未満の研究者の優れた研究計画を支援する若手研究については、研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点から審査を行った。また、今回の審査から産前産後の休暇・育児休業期間に加え、新たに「未就学児の養育期間」を配慮期間とした。初めて審査を経験した審査委員からは、手順や方法に手間取ったためもう少し事前説明が欲しい、審査委員向けにオンライン等での研修があつてもいいのではないか、という意見があった。また、応募者の所属・職名等の記載が目に付くことから、無意識のバイアスを助長している部分があるのではないか、という意見があった。

## ○研究活動スタート支援

研究機関に採用されたばかりの研究者や未就学児の養育等から復帰する研究者のうち、前年秋の募集時期に応募できなかった研究者の優れた研究計画を支援するものである。研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点から審査を行った。今回の審査から、応募要件（B）では産前産後の休暇・育児休業期間に加えて新たに「未就学児の養育期間」を配慮期間とした結果、当該応募要件（B）での応募者が倍増した（令和5年度：81名、令和6年度：150名）。審査委員からも、女性研究者を含めた若手研究者の研究再開サポートに繋がる、と好意的な意見が多くあった。また、審査の方式が2段階書面審査から1段階での書面による審査に変更された。審査の効率化および審査結果通知の早期化という点で、応募者、審査委員双方にとってメリットが大きいという意見が多くあった。一方、今までの2段階審査では他審査委員の意見を参考に評価の見直しを行っていたことから、特に専門分野が離れた研究計画調書を審査した審査委員からは、自分の評価の適切性を確認する機会が欲しい、という意見もあった。

### 【審査における多様性の確保】

審査委員については、日本学術振興会学術システム研究センターの複数の研究員が、審査委員候補者データベースに登録されている研究者の中から、専門分野ごとに作成した候補者案を基に振興会が選考している。候補者案の作成にあたっては、学術分野に精通し公正で十分な評価能力を有する者を選考するとともに、国際的な視野を持つ者であることにも配慮した。

また、審査委員の多様性に配慮する観点から、女性研究者等の積極的な登用に努め、所属研究機関のバランスなどにも配慮した審査体制としたことに加え、特別推進研究においては海外の研究者による専門的な立場からの意見も活用するなど、多様でより広い評価の視点を確保した。

なお、令和6年度審査における女性審査委員は2,001名であった。（詳細は別紙1－2を参照）

## 3. 今後の審査に向けて

学術研究は、研究者同士が建設的に評価・審査しあうピアレビューのシステムにより発展してきた。科研費のピアレビューをより一層充実させるためにも、審査委員からの様々な意見だけでなく、審査の検証及び検証によって蓄積された情報も適切に反映・活用し、さらに公正で透明性の高い審査・評価システムとなるよう引き続き改善に取り組む必要がある。

優れた研究課題を採択する上で、審査委員の多様性は極めて重要であることから、総合審査における合議審査の場などの活用により審査委員の育成を進めていくとともに、引き続き女性研究者、審査委員未経験者及び若手研究者の審査委員への登用に努める。

また、令和6年度審査より研究活動スタート支援において審査方式が2段階書面審査から1段階

での書面による審査に変更された。審査の効率化や研究者人口の減少といった状況変化に対応し、審査システムを将来にわたって持続可能なかたちで再構築することは、審査委員だけでなく応募者にとってもメリットが大きい。審査委員は新しい価値を創造する第一線の研究者でもあり、研究者の研究時間の確保は重要であることから、研究者が研究に専念できる環境を実現できるよう、研究種目の目的、性格等に応じてメリハリをつけた持続可能な審査システムの在り方の検討が強く望まれている。

加えて、振興会では、「科学研究費助成事業の合議審査の開催形式に係る基本方針について」において、当面の間「Web会議形式」による合議審査を基本とすることを決定している。審査資料の電子化を進めるとともに、今後も審査業務のデジタル・トランスフォーメーション（DX）等により、業務効率化を一層推進していく必要がある。

# 参 考 資 料

(別紙 1－1) 科学研究費委員会組織図

(別紙 1－2) 審査委員候補者の推移及び令和 6(2024)年度審査における審査委員の状況

(別紙 2) 研究種目別の公募・審査の状況

(別紙 3) 令和 6(2024)年度科学研究費助成事業の審査結果

(別紙 4) 研究種目別の応募件数・採択件数の推移

(別紙 5) 研究機関種別の応募・採択等の状況

(別紙 6) 職種別の応募・採択等の状況

(別紙 7) 男女別の応募・採択等の状況

(別紙 8) 年齢別の応募・採択等の状況

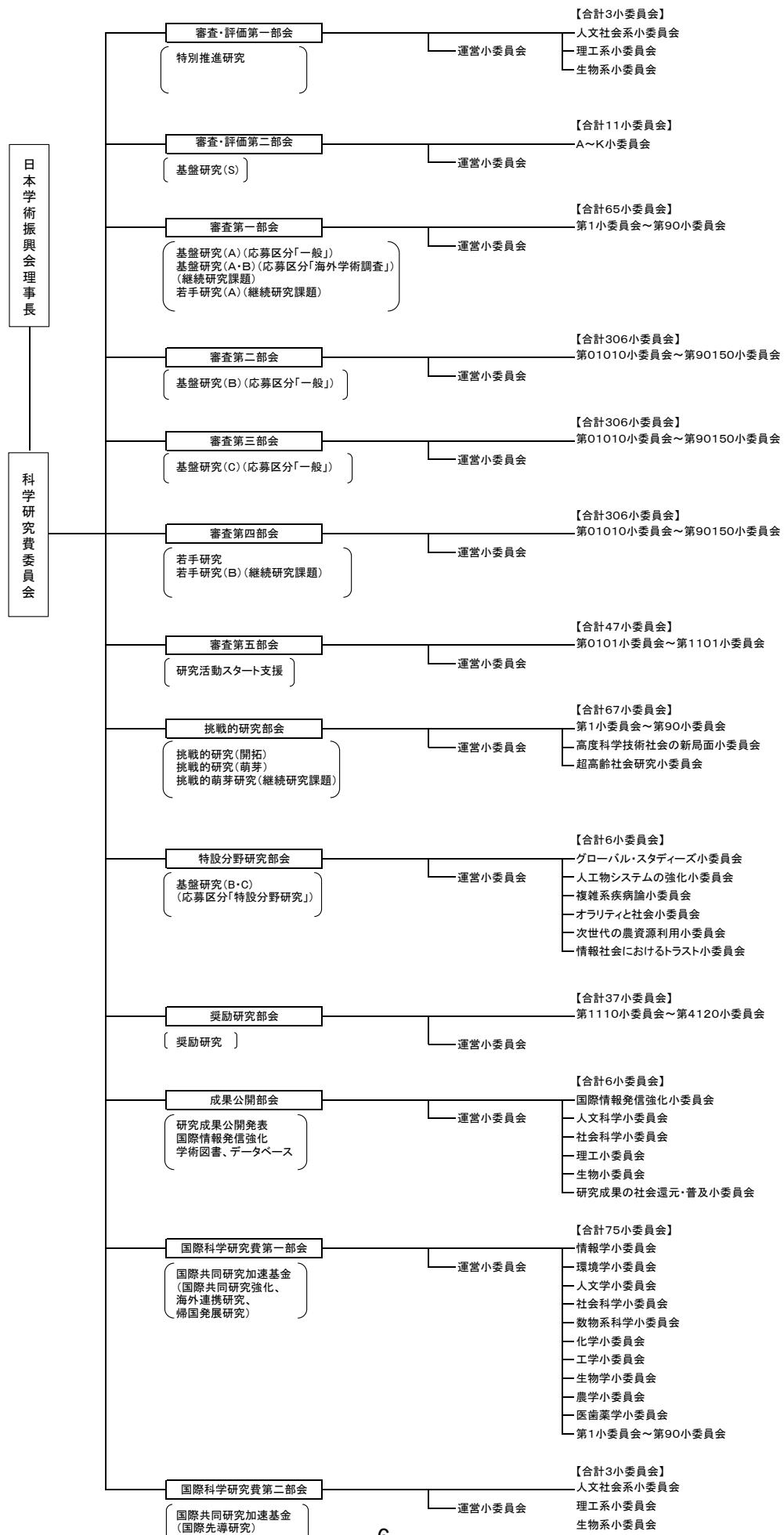
注 1) 別紙 3 及び別紙 5～8 に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注 2) 別紙 5～8 について、科研費の審査（ピアレビュー）に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

# 科学研究費委員会組織図

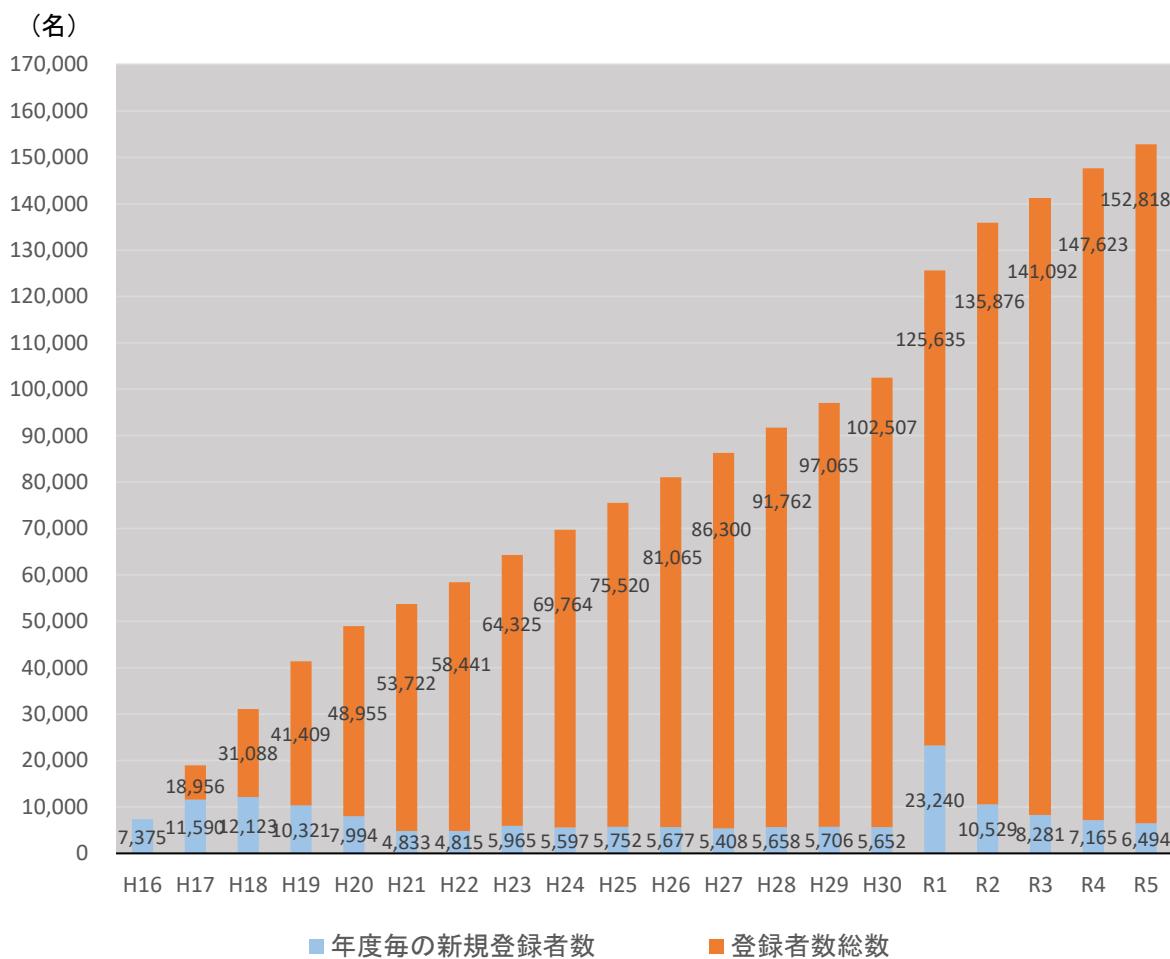
別紙1-1

【小委員会合計: 1,238小委員会(分割及び合同は含まない)】

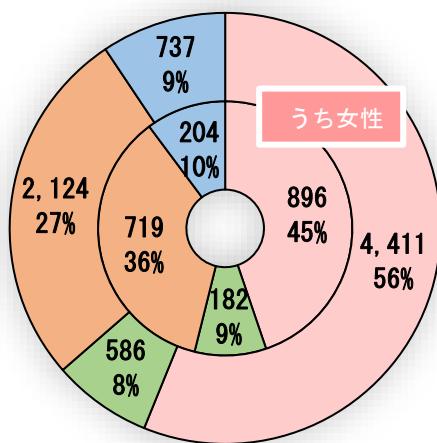


## 審査委員候補者の推移及び令和 6 年度審査における審査委員の状況

### ○審査委員候補者データベースの登録者数の推移



### ○令和 6 年度審査における審査委員の状況



	審査委員数	うち女性
国立大学	4,411	896
公立大学	586	182
私立大学	2,124	719
その他	737	204
計	7,858	2,001

## 研究種目ごとの公募・審査の状況

### ○公募

応募書類は、「電子申請システム」を活用して研究種目ごとに受付を行った。

研究種目	公募期間
特別推進研究、基盤研究（S）	令和5(2023)年4月13日～6月19日
基盤研究（A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究、奨励研究、研究成果公開促進費	令和5(2023)年7月14日～9月19日
研究活動スタート支援	令和6(2024)年3月1日～5月9日

### ○審査

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」に基づき、上記種目について7,280名（国際種目を含まない）の審査委員により審査を実施した。

#### (1) 特別推進研究

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野ごとの3小委員会（審査委員数32名（以下同じ。））及び運営小委員会（8名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査）</li> <li>・審査区分：「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」（審査委員8名～14名）</li> <li>・審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い国内の研究者各3名程度が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施</li> <li>・第1回合議審査で用いた資料に加えて、審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い海外の研究者各3名程度が作成）も活用し、ヒアリングを実施</li> <li>・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査等の経過	令和5(2023)年 7月24日～8月18日	審査意見書作成者（国内：211名）が審査意見書を作成
	令和5(2023)年 8月10日～9月22日	書面審査
	令和5(2023)年 10月11日～10月23日	第1回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）
	令和5(2023)年 11月2日～12月1日	審査意見書作成者（海外：35名）が審査意見書を作成
	令和5(2023)年 11月29日～12月11日	第2回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定）
	令和5(2023)年 12月21日	運営小委員会（各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定）

(2) 基盤研究（S）

審査組織	審査・評価第二部会に置かれる専門分野ごとの 18 小委員会（108 名）及び運営小委員会（20 名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査）</li> <li>・審査区分：大区分（審査委員 6 名～18 名）</li> <li>・審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い国内の研究者 3 名が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施</li> <li>・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第 1 回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査等の経過	令和 5 (2023) 年 7 月 24 日～8 月 18 日	審査意見書作成者（1,454 名）が審査意見書を作成
	令和 5 (2023) 年 8 月 24 日～9 月 28 日	書面審査
	令和 5 (2023) 年 10 月 25 日～11 月 15 日	第 1 回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）
	令和 5 (2023) 年 12 月 25 日～ 令和 6 (2024) 年 1 月 24 日	第 2 回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定）
	令和 6 (2024) 年 2 月 7 日	運営小委員会（各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定）

(3) 基盤研究（A）

審査組織	審査第一部会に置かれる専門分野ごとの 79 小委員会（502 名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査）</li> <li>・審査区分：中区分（審査委員 6 名～8 名）</li> <li>・書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和 5 (2023) 年 10 月 17 日～11 月 24 日	書面審査
	令和 5 (2023) 年 12 月 18 日～ 令和 6 (2024) 年 1 月 25 日	合議審査を実施（採択研究課題を決定）

(4) 挑戦的研究

審査組織	挑戦的研究部会に置かれる専門分野ごとの 76 小委員会（508 名）
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式： (開拓) 総合審査（書面審査及び合議審査） (萌芽) 2 段階書面審査</li> <li>・審査区分：中区分</li> <li>・事前の選考[各小委員会に属する審査委員（6 名～8 名）のうち 3 名が研究計画調書（概要版）を用いて採択候補研究課題を絞り込む。（応募件数が少ない審査区分においては事前の選考は実施しない。）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査</li> <li>・合議審査により採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和 5 (2023) 年 10 月 30 日～12 月 4 日	(開拓) (萌芽) 事前の選考
	令和 6 (2024) 年 1 月 24 日～3 月 4 日	(開拓) 書面審査 (萌芽) 1 段階目の書面審査
	令和 6 (2024) 年 4 月 8 日～5 月 8 日	(開拓) 合議審査を実施 (採択研究課題を決定)
	令和 6 (2024) 年 5 月 9 日～5 月 22 日	(萌芽) 2 段階目の書面審査

#### (5) 基盤研究 (B)

審査組織	審査第二部会に置かれる専門分野ごとの 310 小委員会 (1,749 名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：2 段階書面審査</li> <li>・審査区分：小区分（一部の小区分については複数の小区分での合同審査を実施）(審査委員 6～9 名)</li> <li>・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和 5 (2023) 年 10 月 20 日～12 月 7 日	1 段階目の書面審査
	令和 6 (2024) 年 1 月 11 日～1 月 25 日	2 段階目の書面審査 (採択研究課題を決定)

#### (6) 基盤研究 (C)

審査組織	審査第三部会に置かれる専門分野ごとの 623 小委員会 (2,488 名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：2 段階書面審査</li> <li>・審査区分：小区分 (審査委員 4 名)</li> <li>・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和 5 (2023) 年 10 月 20 日～12 月 7 日	1 段階目の書面審査
	令和 6 (2024) 年 1 月 11 日～1 月 25 日	2 段階目の書面審査 (採択研究課題を決定)

#### (7) 若手研究

審査組織	審査第四部会に置かれる専門分野ごとの 356 小委員会 (1,380 名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：2 段階書面審査</li> <li>・審査区分：小区分 (審査委員 4 名)</li> <li>・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和 5 (2023) 年 10 月 20 日～12 月 7 日	1 段階目の書面審査

	令和6(2024)年 1月11日～1月25日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）
--	---------------------------	----------------------

(8) 研究活動スタート支援

審査組織	審査第五部会に置かれる専門分野ごとの63小委員会（252名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：書面審査</li> <li>・審査区分：「研究活動スタート支援 審査区分」（審査委員4名）</li> <li>・1段階の書面審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和6(2024)年 5月26日～6月30日	1段階の書面審査（採択研究課題を決定）

(9) 奨励研究

審査組織	奨励研究部会に置かれる専門分野ごとの52小委員会（156名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査方式：2段階書面審査</li> <li>・審査区分：「奨励研究 審査区分表」（審査委員3名）</li> <li>・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定</li> </ul>	
審査の経過	令和5(2023)年 10月25日～12月7日	1段階目の書面審査
	令和6(2024)年 1月11日～1月25日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(10) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

審査組織	成果公開部会に置かれる6小委員会（105名）及び運営小委員会（6名）		
審査方法	国際情報発信強化	〔国際情報発信強化（A）・オープンアクセス刊行支援〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際情報発信強化小委員会に属する15名（学術団体等における学術刊行物の編集長、刊行業務担当等の運営又は実務経験者）の審査委員が書面審査を実施</li> <li>・小委員会において合議審査により採択課題を決定</li> </ul>
		〔国際情報発信強化（B）〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際情報発信強化小委員会に属する6名の関連審査委員が書面審査を実施</li> <li>・小委員会において合議審査により採択課題を決定</li> </ul>
	研究成果公開発表（研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小委員会に属する3名の関連審査委員が書面審査を実施</li> <li>・各小委員会において合議審査により採択課題を決定</li> </ul>

	研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	・研究成果の社会還元・普及小委員会に属する 21 名の審査委員が書面審査を実施 ・合議審査により採択課題を決定
審査の経過	国際情報発信強化	令和 5 (2023) 年 11 月 30 日～令和 6 (2024) 年 1 月 5 日 書面審査
		令和 6 (2024) 年 2 月 7 日 合議審査（採択課題を決定）
	研究成果公開発表（研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース	令和 5 (2023) 年 11 月 30 日～令和 6 (2024) 年 1 月 5 日 書面審査 令和 6 (2024) 年 1 月 19 日～3 月 11 日 合議審査（採択課題を決定）
	研究成果公開発表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	令和 5 (2023) 年 11 月 30 日～令和 6 (2024) 年 1 月 5 日 書面審査 令和 6 (2024) 年 2 月 5 日 合議審査（採択候補課題を決定） 令和 6 (2024) 年 2 月 16 日 研究成果の社会還元・普及小委員会において採択課題を決定

## 令和6(2024)年度科学研究費助成事業の審査結果

## 新規採択分

令和6(2024)年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率		平均	最高
科学研究費	件 〔 87,899 〕 91,198	件 〔 24,219 〕 25,046	% 27.6 27.5	千円 〔 55,729,500 〕 57,132,970 〔 17,087,040 〕	千円 〔 2,301 〕 2,281	千円 〔 251,600 〕 243,600
	〔 89 〕 72	10 10	11.2 13.9	〔 1,355,500 〕 1,194,000 〔 358,200 〕	〔 135,550 〕 119,400	〔 251,600 〕 243,600
(1)特別推進研究	〔 571 〕 547	70 65	12.3 11.9	〔 2,809,500 〕 3,143,900 〔 943,170 〕	〔 40,136 〕 48,368	〔 142,100 〕 115,500
	〔 1,802 〕 2,320	491 632	27.2 27.2	〔 5,956,700 〕 7,482,700 〔 2,244,810 〕	〔 12,132 〕 11,840	〔 34,900 〕 32,800
(4)基盤研究(B)	〔 11,555 〕 11,875	3,234 3,327	28.0 28.0	〔 17,275,400 〕 16,619,000 〔 4,985,700 〕	〔 5,342 〕 4,995	〔 14,100 〕 12,900
	〔 43,689 〕 45,713	11,991 12,551	27.4 27.5	〔 15,447,400 〕 15,845,100 〔 4,753,530 〕	〔 1,288 〕 1,262	〔 3,500 〕 3,400
(6)挑戦的研究(開拓)	〔 1,502 〕 1,564	177 170	11.8 10.9	〔 1,250,700 〕 1,161,400 〔 348,420 〕	〔 7,066 〕 6,832	〔 16,100 〕 18,100
	〔 9,036 〕 9,083	1,115 1,073	12.3 11.8	〔 2,534,700 〕 2,431,100 〔 729,330 〕	〔 2,273 〕 2,266	〔 4,700 〕 4,600
(8)若手研究	〔 13,060 〕 13,207	5,274 5,290	40.4 40.1	〔 7,334,100 〕 7,465,800 〔 2,239,740 〕	〔 1,391 〕 1,411	〔 3,400 〕 3,500
	〔 3,856 〕 4,179	1,435 1,521	37.2 36.4	〔 1,423,300 〕 1,613,800 〔 484,140 〕	〔 992 〕 1,061	〔 1,100 〕 2,000
(10)奨励研究	〔 2,739 〕 2,638	422 407	15.4 15.4	〔 184,730 〕 176,170	〔 438 〕 433	〔 480 〕 470
	〔 997 〕 938	460 424	46.1 45.2	〔 601,080 〕 502,800	〔 1,307 〕 1,186	〔 45,400 〕 10,900
研究成果公開発表	〔 359 〕 333	237 217	66.0 65.2	〔 135,680 〕 122,700	〔 572 〕 565	〔 6,200 〕 7,700
	〔 31 〕 33	6 10	19.4 30.3	〔 63,000 〕 50,200	〔 10,500 〕 5,020	〔 45,400 〕 10,900
学術図書	〔 542 〕 516	191 172	35.2 33.3	〔 306,700 〕 267,700	〔 1,606 〕 1,556	〔 7,300 〕 5,100
	〔 65 〕 56	26 25	40.0 44.6	〔 95,700 〕 62,200	〔 3,681 〕 2,488	〔 9,700 〕 7,100
合計	〔 88,896 〕 92,136	24,679 25,470	27.8 27.6	〔 56,330,580 〕 〔 16,616,190 〕 〔 57,635,770 〕 〔 17,087,040 〕	〔 2,283 〕 2,263	〔 251,600 〕 243,600

(注1)上段〔 〕内は前年度、下段〔 〕は間接経費(外数)を示す。

(注2)基盤研究(C)、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和6年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3)「特別研究員奨励費」は含まない。

## 令和6(2024)年度科学研究費助成事業の審査結果

### 新規採択分+継続分

令和6(2024)年10月現在

研究種目	研究課題数		研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択		平均	最高
科学研究費	件 〔 142,119 〕 143,838	件 〔 78,360 〕 77,658	千円 〔 145,016,770 〕 145,599,520 〔 44,411,370 〕	千円 〔 1,851 〕 1,875	千円 〔 251,600 〕 243,600
	〔 134 116 〕	55 54	5,171,300 4,645,600 〔 1,393,680 〕	94,024 86,030	251,600 243,600
(1)特別推進研究	〔 887 851 〕	386 364	11,308,100 11,128,000 〔 3,338,400 〕	29,296 30,571	142,100 115,500
(2)基盤研究(S)	〔 3,436 3,851 〕	2,110 2,140	17,227,900 18,310,900 〔 5,493,270 〕	8,165 8,556	34,900 32,800
(4)基盤研究(B)※1	〔 20,106 20,300 〕	11,721 11,752	43,390,329 43,360,566 〔 13,008,170 〕	3,702 3,690	14,100 12,900
(5)基盤研究(C)	〔 72,306 73,597 〕	40,608 40,435	38,310,800 39,221,900 〔 11,766,570 〕	943 970	3,500 3,400
(6)挑戦的研究(開拓)	〔 1,947 2,029 〕	622 635	3,475,900 3,384,000 〔 1,015,200 〕	5,588 5,329	16,400 18,100
(7)挑戦的研究(萌芽)	〔 11,308 10,954 〕	3,387 2,944	6,391,200 5,610,400 〔 1,683,120 〕	1,887 1,906	4,700 4,600
(8)若手研究(A)※1	〔 2 2 〕	2 2	3,600 3,600 〔 1,080 〕	1,800 1,800	3,000 3,000
(9)若手研究(B)	〔 4 4 〕	4 4 〔 — 〕	— — 〔 — 〕	— —	— —
(10)若手研究	〔 23,958 23,829 〕	16,172 15,912	16,716,300 16,733,300 〔 5,019,990 〕	1,034 1,052	3,400 3,500
(11)研究活動スタート支援	〔 5,288 5,660 〕	2,867 3,002	2,835,400 3,022,700 〔 906,810 〕	989 1,007	1,100 2,000
(12)奨励研究	〔 2,743 2,645 〕	426 414	185,941 178,554	436 431	480 470
研究成果公開促進費	〔 1,058 991 〕	521 477	785,080 717,500	1,507 1,504	45,400 43,100
研究成果公開発表	〔 360 335 〕	238 219	141,780 134,000	596 612	6,200 7,700
国際情報発信強化	〔 72 70 〕	47 47	219,400 232,000	4,668 4,936	45,400 43,100
学術図書	〔 550 519 〕	199 175	314,000 271,000	1,578 1,549	7,300 5,100
データベース	〔 76 67 〕	37 36	109,900 80,500	2,970 2,236	9,700 7,100
合計	〔 143,177 〕 144,829	78,881 78,135	145,801,850 〔 43,449,249 〕 146,317,020 〔 44,411,370 〕	1,848 1,873	251,600 243,600

(注1)上段〔 〕内は前年度、下段〔 〕は間接経費(外数)を示す。

(注2)基盤研究(B)、基盤研究(C)、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究(B)、若手研究について、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和6年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3)「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

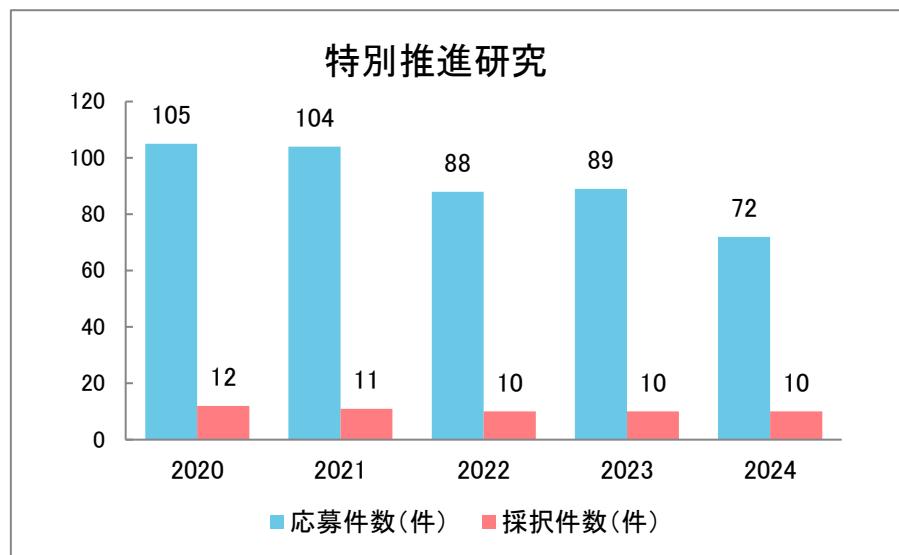
なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の令和5(2023)年度継続分の応募・採択状況は、応募数(1件)、採択数(1件)、配分額(直接経費 0千円、間接経費 0千円)。

(注4)※1は、令和5年度の配分額を計上。

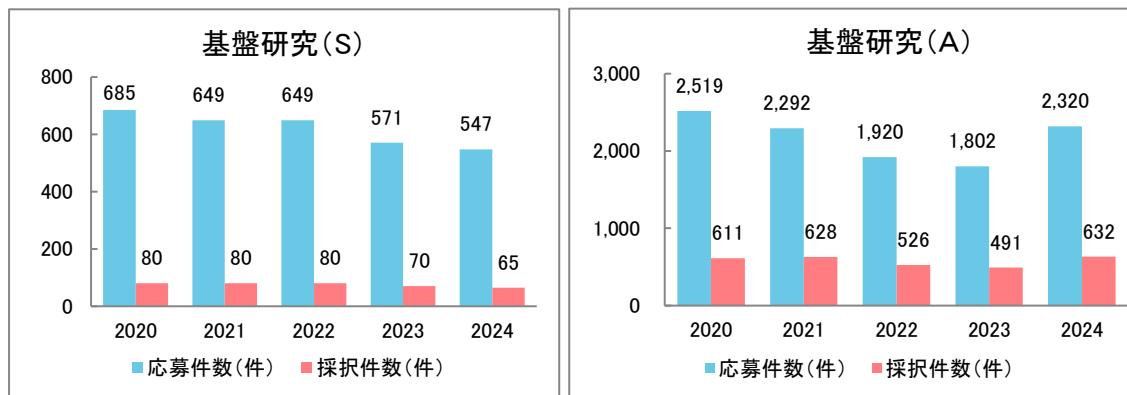
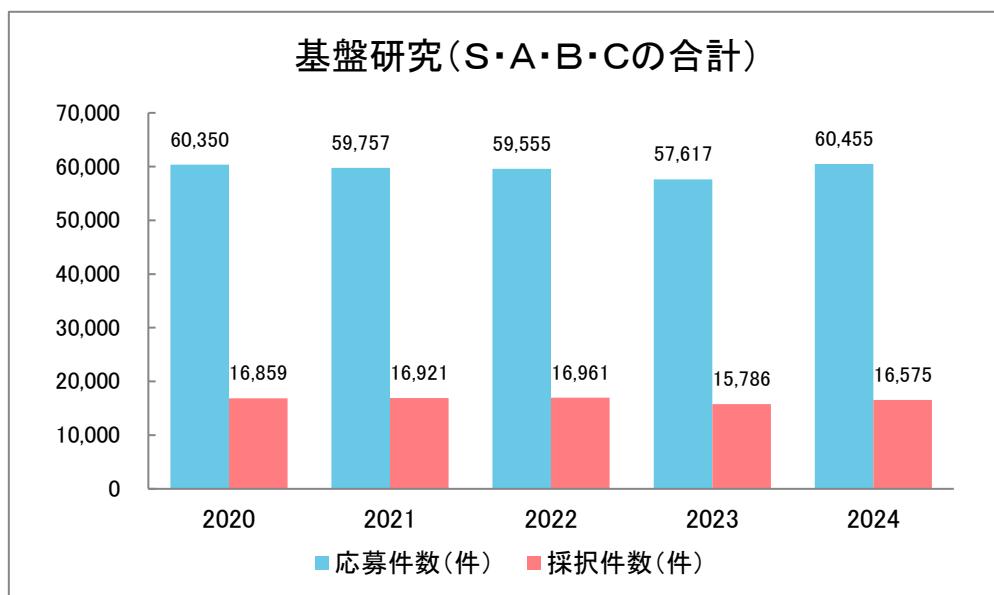
### 研究種目別の応募件数・採択件数の推移

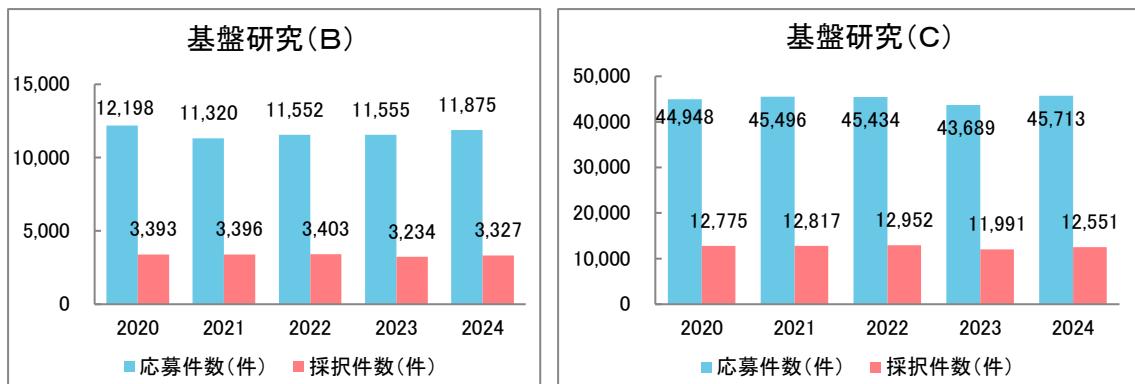
#### ○応募件数・採択件数の推移

##### (1) 特別推進研究

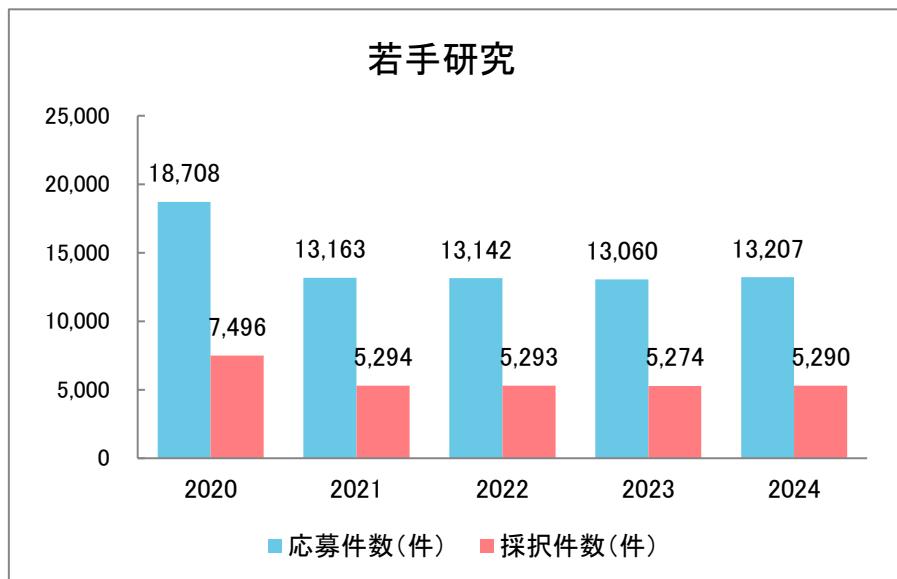


##### (2) 基盤研究

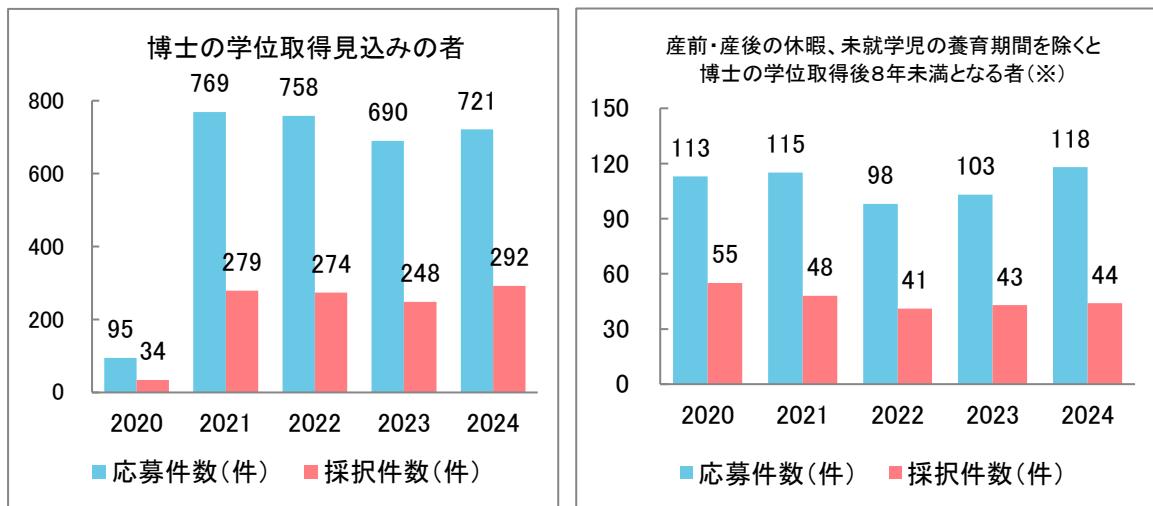




### (3) 若手研究

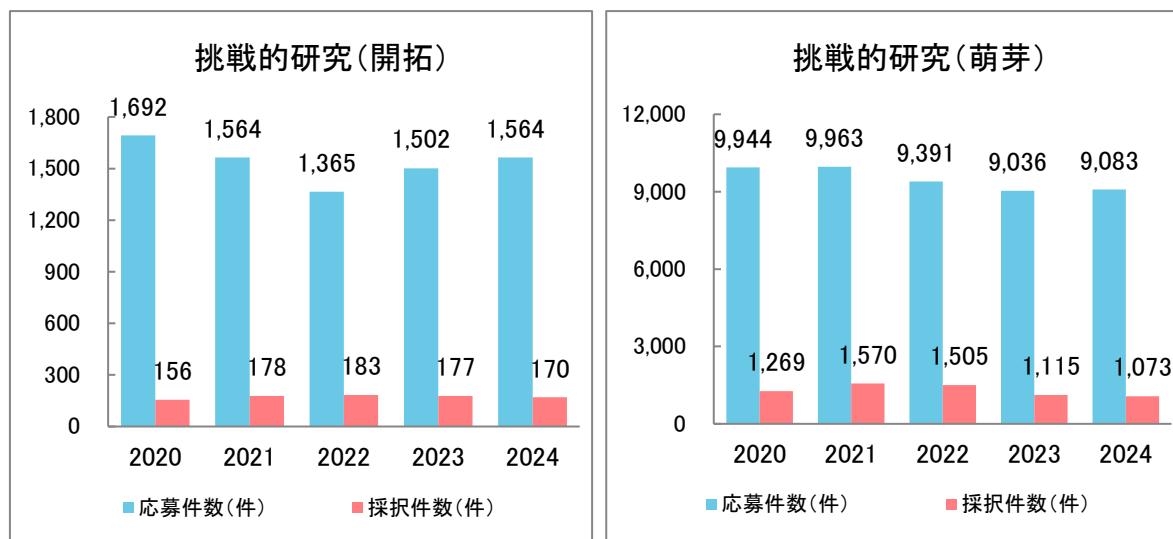


※平成30(2018)年度より、若手研究(A)は公募を停止し若手研究(B)は「若手研究」に名称を変更

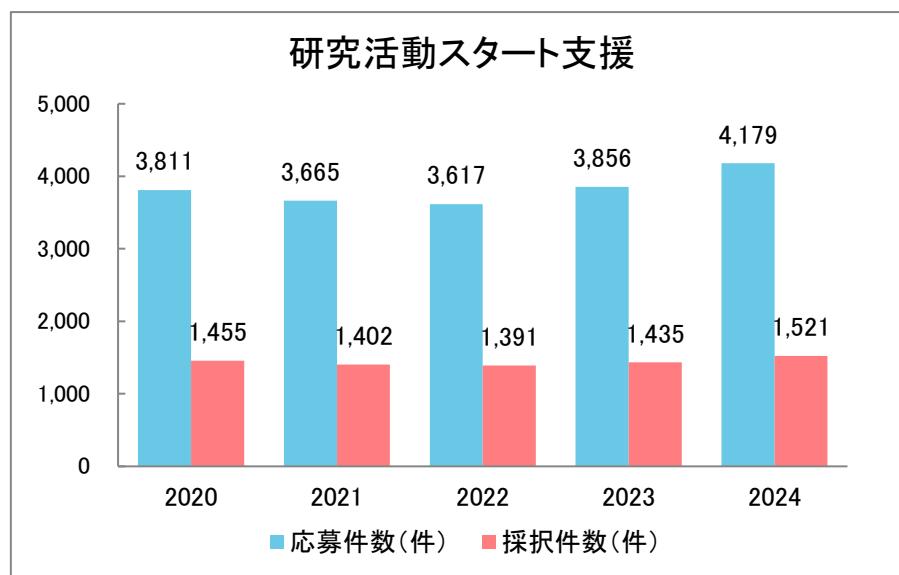


※2023年度までは「産前・産後の休暇、育児休暇期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者」

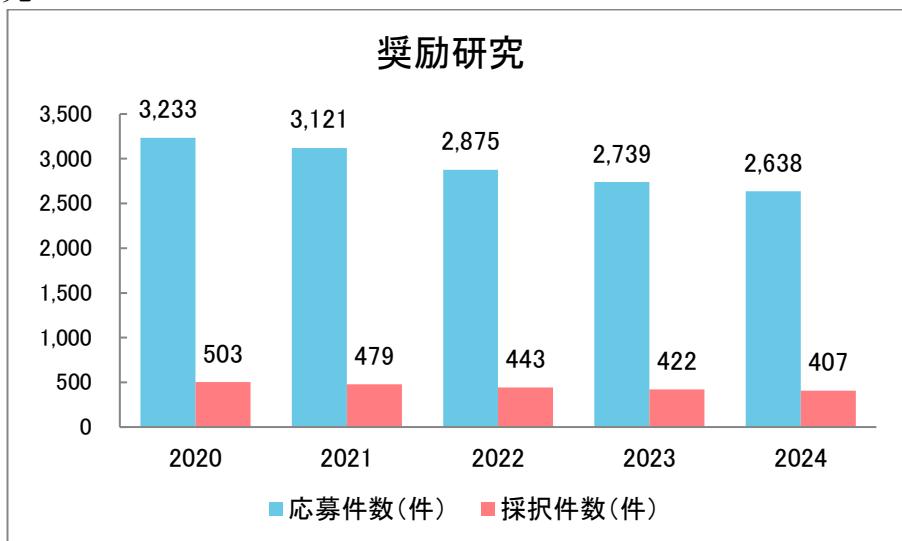
#### (4) 挑戦的研究



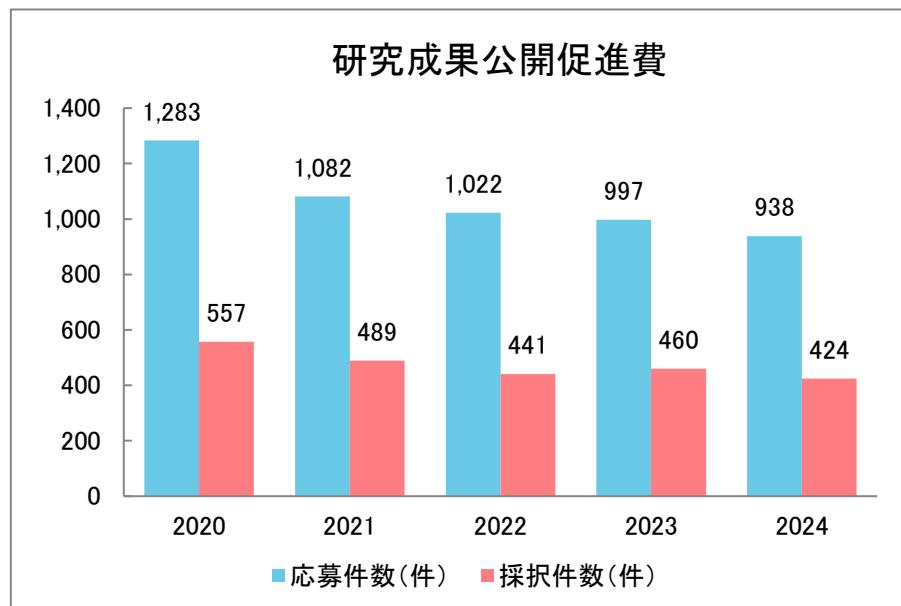
#### (5) 研究活動スタート支援



#### (6) 奨励研究



(7) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）



※令和元(2019)年度より、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を研究成果公開促進費（研究成果公開発表）として、公募と審査を実施。

## 研究機関種別の応募・採択等の状況

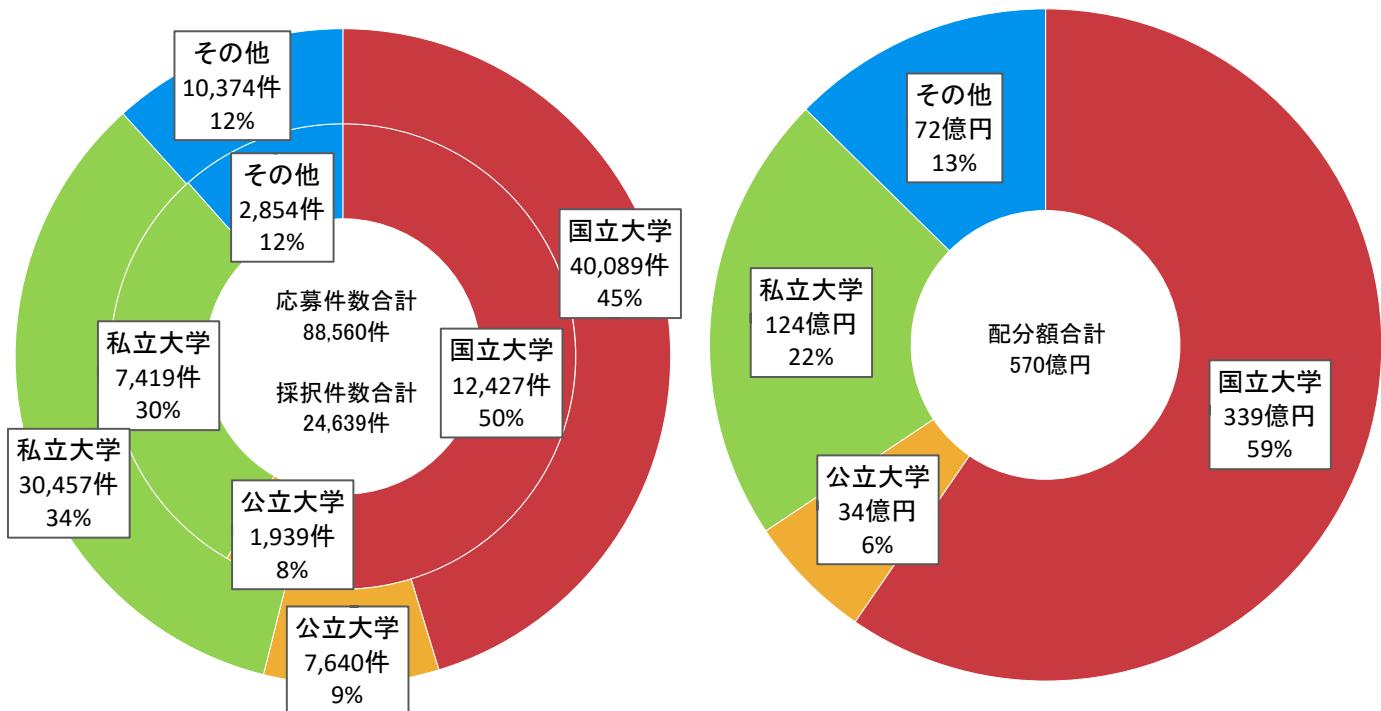
区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	40,089	12,427	31.0%	33,941,400	2,731
公立大学	7,640	1,939	25.4%	3,457,700	1,783
私立大学	30,457	7,419	24.4%	12,354,300	1,665
その他	10,374	2,854	27.5%	7,203,400	2,524
短期大学、高等専門学校	2,718	379	13.9%	592,900	1,564
大学共同利用機関法人	811	276	34.0%	1,144,300	4,146
国公立試験研究機関	1,050	351	33.4%	661,000	1,883
特殊法人、独立行政法人等	4,874	1,595	32.7%	4,272,200	2,678
一般社団法人、一般財団法人	704	198	28.1%	437,400	2,209
企業等の研究所	217	55	25.3%	95,600	1,738
合計	88,560	24,639	27.8%	56,956,800	2,312

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

## 応募・採択件数

## 配分額

※外円は応募件数、内円は採択件数

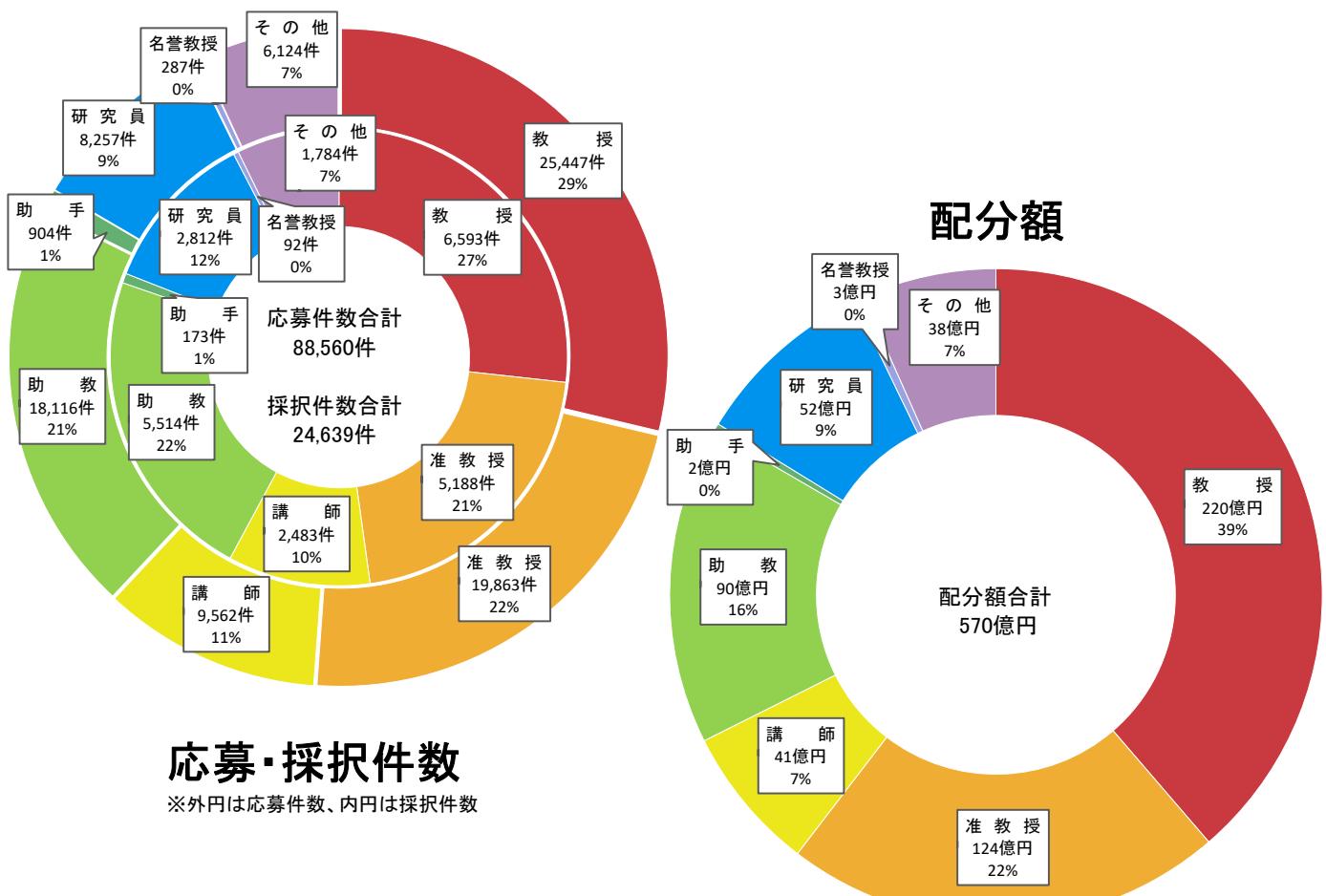


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

## 職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教 授	25,447	6,593	25.9%	22,034,400	3,342
准 教 授	19,863	5,188	26.1%	12,375,400	2,385
講 師	9,562	2,483	26.0%	4,099,800	1,651
助 教	18,116	5,514	30.4%	8,980,300	1,629
助 手	904	173	19.1%	229,800	1,328
研 究 員	8,257	2,812	34.1%	5,154,700	1,833
名譽教授	287	92	32.1%	284,100	3,088
そ の 他	6,124	1,784	29.1%	3,798,300	2,129
合 計	88,560	24,639	27.8%	56,956,800	2,312

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」(「特設分野研究」を除く)、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

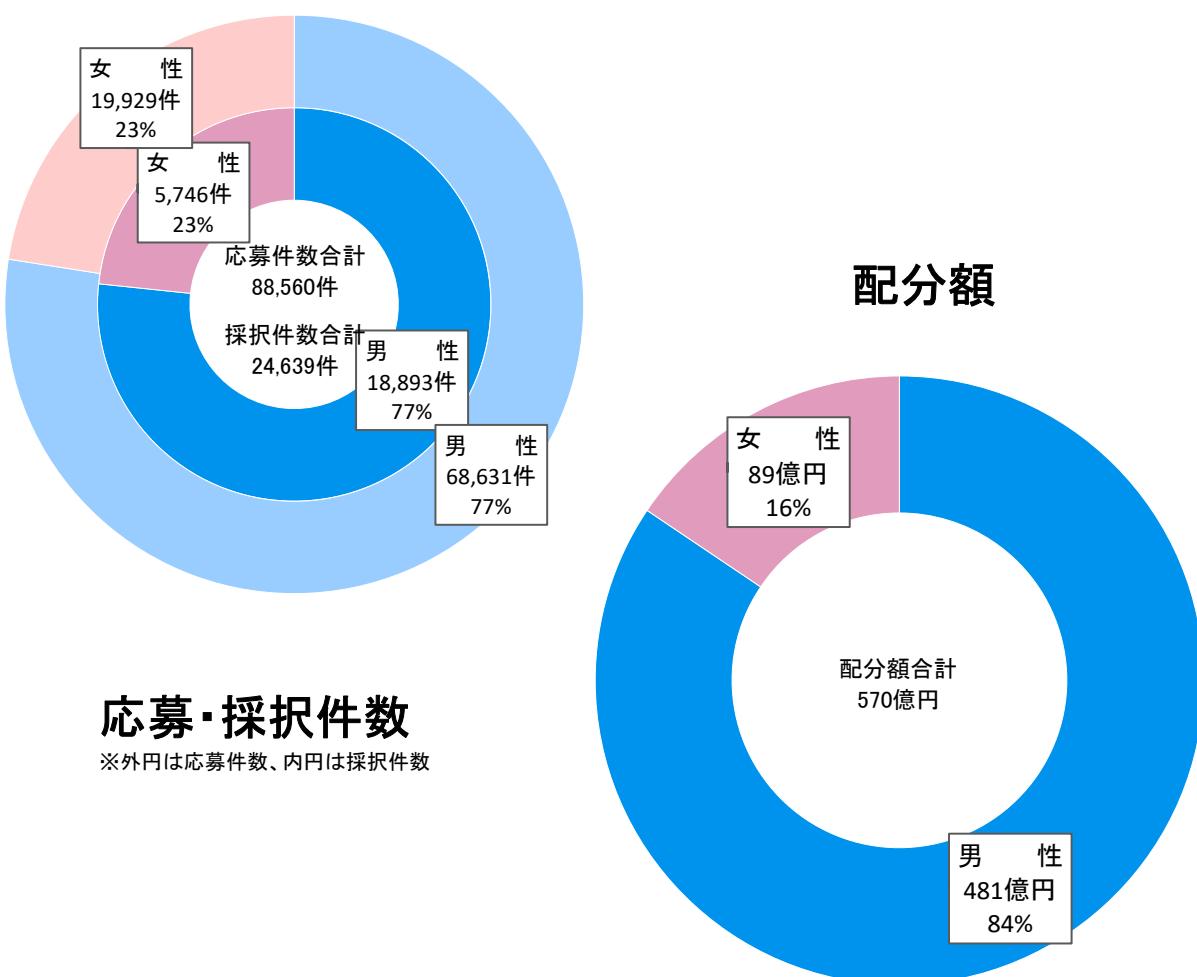


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

## 男女別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男 性	68,631	18,893	27.5%	48,089,000	2,545
女 性	19,929	5,746	28.8%	8,867,800	1,543
合 計	88,560	24,639	27.8%	56,956,800	2,312

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」「特設分野研究」を除く)、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

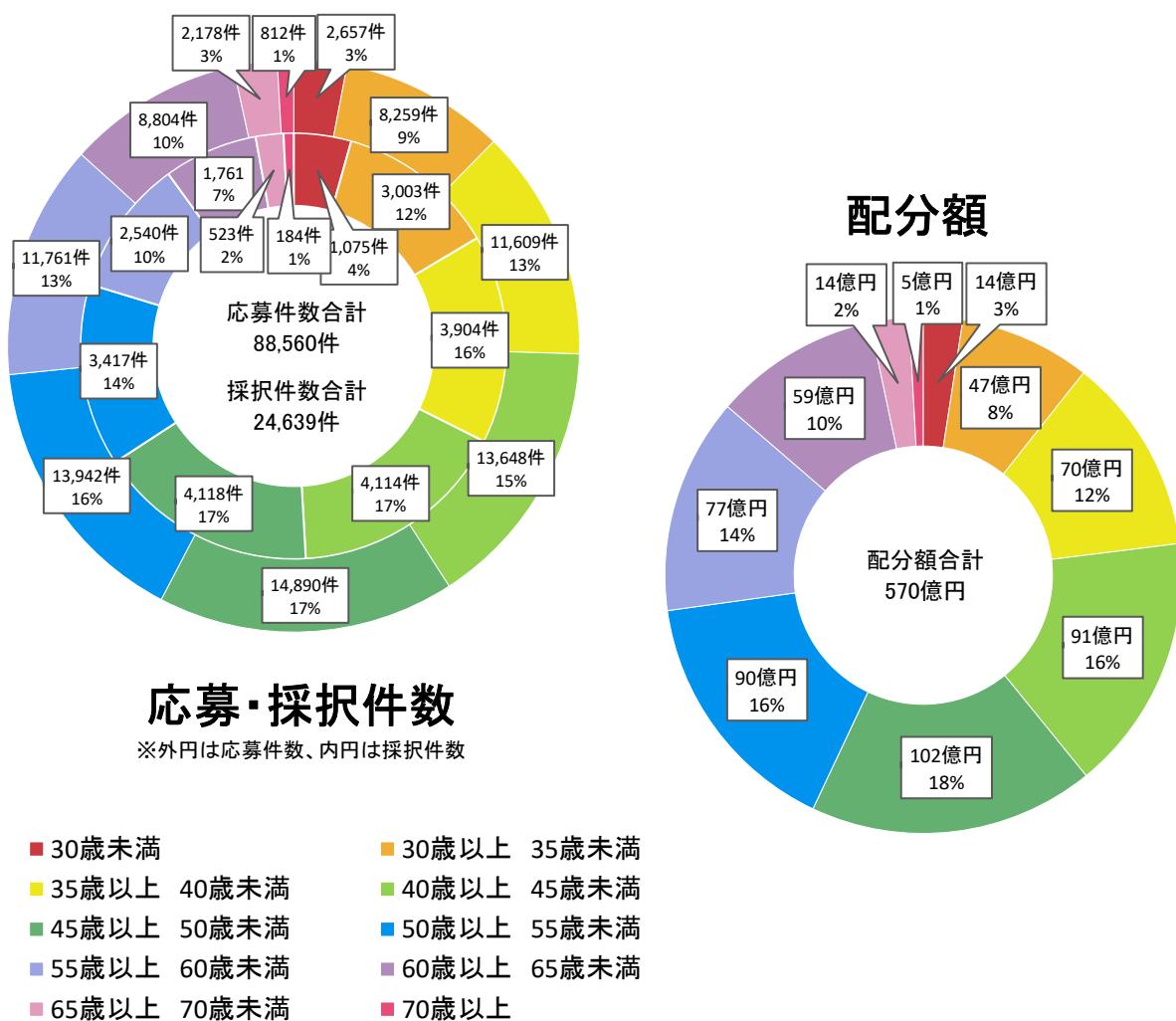


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

## 年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	2,657	1,075	40.5%	1,394,700	1,297
30歳以上 35歳未満	8,259	3,003	36.4%	4,679,400	1,558
35歳以上 40歳未満	11,609	3,904	33.6%	7,055,800	1,807
40歳以上 45歳未満	13,648	4,114	30.1%	9,164,100	2,228
45歳以上 50歳未満	14,890	4,118	27.7%	10,180,700	2,472
50歳以上 55歳未満	13,942	3,417	24.5%	8,992,800	2,632
55歳以上 60歳未満	11,761	2,540	21.6%	7,698,800	3,031
60歳以上 65歳未満	8,804	1,761	20.0%	5,908,500	3,355
65歳以上 70歳未満	2,178	523	24.0%	1,382,500	2,643
70歳以上	812	184	22.7%	499,500	2,715
合 計	88,560	24,639	27.8%	56,956,800	2,312

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。